

平成28年度 シラバス

(沖縄県立球陽高等学校)

教科名	地理歴史科	科目名	世界史A	単位数	2単位
教科書	『明解 世界史A』(帝国書院)			学年クラス	1年 1～4組
副教材	『明解 世界史図説 エスカリエ 七訂版』(帝国書院)				

1 学習の到達目標及び評価方法等

目標	<p>1. 近現代史を中心とした世界の歴史の展開を理解する。</p> <p>2. 我が国の歴史と関連付けながら理解させ、人類の課題を多角的・多面的に考察させる。</p> <p>3. 歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。</p>
評価の観点	<p>【関心・意欲・態度】近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生き、国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。</p> <p>【思考・判断・表現】現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>【資料活用の技能】近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。</p> <p>【知識・理解】近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。</p>
評価方法	<p>①定期考査(年5回)</p> <p>②小テスト(単元末テスト等)</p> <p>③課題・提出物(授業プリントや長期休暇時等の課題の提出)</p> <p>④授業への参加姿勢(授業態度・質問・発表・出欠の状況等)</p>

2 学習計画

月	時数	単元名	指導目標	評価の観点				評価	進度
				関	思	技	知		
4	1	序章	世界史学習について関心を持たせる。	◎	○	△	○	一学期 中間考査	
	3	1部 世界の一体化と日本 1章 前近代の諸文明	人類の発生・進化の過程や農耕・牧畜による食料生産革命、文明の成立など人類史について概観し、広大な時空のスケールを意識させながら、世界史学習への興味付けを行う。	◎	○	△			
	0.5	1節 東アジアの文明	漢族と遊牧騎馬民族との関係に留意しながら、塞内外の変遷を概略し、風土と生活、言語・文字、思想などの視点を通して、東アジアの世界像を把握させる。	◎	○	△	◎		
5	0.5	2節 南アジアの文明	自然の威力のもとで、宗教と社会制度を共通の基盤として、多様な風土と民族・言語からなる一つの社会が形づくられていく過程を概観し、南アジアの世界像を把握させる。	◎	○	△	◎	一学期 期末考査	
	2	3節 東南アジア	地勢的にインドと中国のはざまにあるため、両文明の影響を強く受けながらも、港市ネットワークを基盤に模倣ではない独自の文化を生み出した東南アジアの世界像を把握させる。	◎	○	△	◎		
	2	4節 西アジア・北アフリカの文明	西アジアの乾燥・半乾燥地帯を舞台にイスラームが成立していく過程を通して、政治経済、生活全般までも規定したイスラームの特色を理解させ、拡大・分裂しながらも地域性を加え独自の世界を形成したイスラームの世界像を把握させる。	◎	○	△	◎		
	2	5節 ヨーロッパの文明	ギリシア・ローマ文明の伝統とキリスト教によって一つの文明を形成したヨーロッパ世界の特質を理解させ、ギリシア＝スラヴ的な東ヨーロッパと封建社会に立脚したローマ＝ゲルマン的な西ヨーロッパの世界像を把握させる。	◎	○	△	◎		
	1	6節 南北アメリカ	アメリカの先住民について理解を深めさせるとともに、ヨーロッパが進出する以前に独自の高度な文化を形成した、南北アメリカ大陸の独自の文明像を把握させる。	◎	○	△	◎		
6	2	7節 ユーラシアの交流圏	8世紀以降、ユーラシアの内陸及び海域のネットワークを背景に、諸地域間の交流が進み、ユーラシア規模の交流圏が成立していく様子を巨視的かつ視覚的に把握させ、相互の文化受容などが進んだことを理解させる。	◎	◎	△	◎		

	3	2章 一体化に向かう世界 1節 繁栄するアジア	16世紀以降のヨーロッパ主導による世界の一体化が、繁栄するアジアとの直接交易を求めた結果であることに気付かせ、政治的・文化的にも成熟期を迎えたアジアの諸帝国を通して16～18世紀にかけての世界の特質を理解させる。	◎	○	△	◎	
7	3	2節 大航海時代と 新たな国家の形成	大航海時代のヨーロッパ人の海外進出と諸地域世界の動向を中心に、16世紀の世界の一体化への動きとヨーロッパの主権国家体制を通して、16～18世紀にかけてのヨーロッパ世界の動向を理解させる。	◎	○	△	◎	二 学 期 中 間 考 査
8 9	6	3章 欧米の工業化と アジア諸国の動揺 1節 欧米の諸革命	18世紀後半から19世紀にかけてのヨーロッパとアメリカの諸革命を中心に、社会の産業化と国民国家の形成が相互に関係しつつ進んだことにより、ヨーロッパを中心として近代が確立したことを理解させ、大西洋三角貿易の発達により国際的分業体制が形成されたことを把握させる。	◎	○	△	◎	
10	4	2節 自由主義・ ナショナリズムの進展	19世紀の転換点となる1848年を節目に、自由主義と国民主義が進展した19世紀後半の欧米社会の特質を理解させる。	◎	○	△	◎	
11	3	3節 アジア諸国の動揺	西・南・東南アジア諸国の内部で進行していた変化とヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌をとらえさせながら、アジア諸国の動揺と対応を通して、19世紀のアジアとヨーロッパの関係を理解させる。	◎	○	△	◎	二 学 期 期 末 考 査
	3	4節 東アジアの大変動	東アジアの内部で進行していた変化とヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌をとらえさせながら、東アジアの大変動を概観し、日本の対応などを含めて19世紀の世界の一体化とその特質を理解させる。	◎	○	△	◎	
	2	2部 地球社会と日本 1章 現代社会の芽生えと 世界大戦 1節 現在につながる社会	19世紀後半から20世紀初頭にかけて、欧米諸国や日本などに見られた社会の急激な変化とヨーロッパ列強の世界分割をめぐる競合、人口移動などを通して、全く性格の異なる新しい社会の出現そして帝国主義時代の世界の一体化と社会の変容を理解させ、現代世界のめばえに気付かせる。	◎	○	△	◎	
12	4	2節 第一次世界大戦が もたらしたもの	第一次世界大戦の原因、性格、戦争がもたらした世界の変化を理解させるとともに、戦時下の総力戦体制、ロシアでの史上初の社会主義革命、国際秩序の変化を通して、戦争と革命が20世紀の大変動の起点となったことを把握させる。	◎	○	△	◎	学 年 末 考 査
	2	3節 民族自決を求めて	アジア諸国の抵抗、近代化の動き、民族意識の形成など、社会変革への主体的動きを把握させる。	◎	○	△	◎	
1	5	4節 経済危機から 第二次世界大戦へ	世界恐慌が戦間期の国際秩序に危機をもたらした新たな国際対立を生み出したことやナチズムなど全体主義と大衆化現象との関連、東アジアでの日本の動向と世界の動き理解させ、第二次世界大戦の経過や複合的な性格、その被害から平和や人権の確立への願いに気付かせ	◎	○	△	◎	
2 3	4	2章 冷戦から地球社会へ 1節 冷たい戦争の時代	第二次世界大戦後の米ソを中心とする両陣営の対立や、アジア・アフリカ諸地域などで見られた民族独立運動の展開を通して、1970年頃までの世界の政治・経済の動向を理解させる。	◎	○	△	◎	
	2	2節 冷戦終結への道のり	戦後世界のあり方が1970年代以降大きく変容していったことを理解させ、これからの国際社会における日本の役割について考察させる。	◎	○	△	◎	レ ポ ー ト 等
	1	3節 地球社会への歩み	21世紀の課題を考えるために、例示された課題などを参考に適切な主題を設定し、生徒の主体的な追究を通して認識を深めさせる。	◎	○	△	◎	
	2	4節 持続可能な社会へ	21世紀の課題である、人権、環境、異文化理解などを具体的な事例を通して考察させ、探求させる。	◎	◎	◎	△	

3 自己評価と課題

到達目標を達成できたか A (80%以上) B (65%以上) C (40%以上) D (40%未満)		次学期 (次年度) に向けての課題
	自己評価	
1学期		
2学期		
3学期		

